

テーマ

[ECEQ®]主体性を育む保育

～幼児が自分から興味を持って関わり、
のびのびと自己表現するための環境について考える～

助言者：岡本 潤子先生

司会者：柴崎 和見

記録者：蝦名 佐加美

公開保育

○当日の様子

当園は前日の幼児の姿からその日の活動が決まるため、公開保育当日の朝に”分科会で話し合いたい活動内容“を選んで頂いた。オリエンテーションで、メインコーディネーターよりECEQを取り入れた公開保育の説明（当日はstep4）や当日までの保育実践より生まれた「問い」への付箋の使い方等の説明をして頂き、公開保育がスタートした。参加者には、担任が提示した「問い」を中心に参観しながら、“いいね”“こんなやり方もあるよ”という意見を付箋に記入して頂いた。

○各クラスの様子

もも組（満3歳児・満2歳児）「コーナー遊び」

自分がしたい遊びに集中して遊ぶ姿が見られたこともあり、ラーメン屋さん、ピクニックごっこ等の遊びに広がっていった。幼児なりにイメージを広げ、そのことについて言葉で伝えようとする姿も見られた。また、友だちとのやりとりを楽しみ、友だちの遊ぶ姿に興味をもち近くで一緒に遊ぶ姿もあった。

さくら組（3歳児）「的あて・コーナー遊び」

コーナー遊びをいくつか用意したことにより、どの幼児も自分で遊びを選び遊んでいた。的あてのコーナーでは、スターター役、的を作る役等様々な形で参加ができるようにしたところ、それぞれの楽しみ方を見つけ、自分のペースで遊び込む様子が見られた。

ぼぶら組（4歳児）「ステージごっこ遊び」

大勢のお客さんを前に、少し緊張を見せていたが、自分の考えをしっかりと友だちに伝えたり、互いの良さを認めあったりしながら、のびのびとステージごっこを楽しんでいた。また、集団からは距離を置いていたが、お客さんに声をかけ、応援グッズを配るなど、一緒に遊びを楽しむ幼児の姿も見られた。



いちよう組（4歳児）「虫取りゲーム」

ゲームの道作りに使えそうなものを用意したり、進む順番が分かるように数字マットを重ねたりと工夫していた。途中からおじゃま虫チームや折り紙チームが出てきて、やりたい遊びを一人ひとりが選択していた。困っている友だちに声をかけたり、「ここ変えてもいい?」と話し合っ

て道を変化させたりと、思いやりの姿や友だち同士の会話もたくさん見られた。



せていた。雨が降り出した為、室内でのBブロック遊びに変更。1度目は2チームに分かれ競争、2度目はクラス全員で1カ所に積み上げた。これまでの経験からしっかりとした土台を作り、今までで一番高く天井まで積み上げ、協力し合い、力を合わせた達成感を味わう姿が見られた。



分科会

やなぎ組（5歳児）「絵本作り」

前回の絵本作りの際、個人で黙々と作る姿が見られたため、当日は椅子に座らず立って作ることを提案した。動きやすい環境になることで、幼児同士の会話が弾んだり、他グループの作品を見に行ったりと活発な姿が見られた。行き詰まったグループには教師が入り、参観の他園の先生方が声をかけてくださったことをきっかけにアイデアが広がる様子も見られた。



午後の分科会では、クラス担任より当日の保育に至る流れを聞いた後、「問い」を中心に、“いいね”、“こんなやり方もあるよ”という参加者との意見を基に語り合いを広げていった。その後全グループの発表があった。（●は頂いた意見から抜粋したものです）

★もも組

【問い】満2歳児、満3歳児と一緒に過ごす中で、満3歳児なりに自分でできることを年下の幼児に見せたい気持ちが育っています。一方で、個人差が大きく「これはいや」「〇〇がしたい」「自分でやりたい！」等の声が聞こえてにぎやかな毎日です。貴園の満3歳児のお子さん方が楽しんでいる遊びを教えてください。

〈問いに関する答え〉

●異年齢との関わりから遊びの発展へとつなげる。他学年と関わる中で刺激を受けられるようにする。

●年長児の活動を観たことでやってみたいという気持ちが芽生える。それをすぐに実現できる

かしわ組（5歳児）「マルチパネル遊び」

約束事を話し合い作り始める。周りをよく見て作り、声を掛け役割分担をしながら力を合わ

ような環境づくりをしていけるようにする。

●生活についての自立も、異年齢との関わりからやってみようとする意欲へとつながる。

〈当日の活動へのアドバイス〉

●活動の楽しいコーナーに加えて、ホッとできる環境として安心して遊べるコーナーを作ってもよいのではないかな。

★さくら組

【問い】①幼児の興味や思いを受け止めながら遊びを広げられるよう環境を設定しました。幼児の姿から気が付いたことを教えてください。

②3歳児一人ひとりに寄り添いながら関わるために気を付けていること、心掛けていることは何ですか。

〈問①に関する答え〉

●一人ひとり丁寧に関わる姿があった。

●幼児が自分のやりたい気持ちを発信できるのは、日頃の教師の聞く姿勢があるからこそ感じた。

●信頼関係ができているからこそ、“やりたい思い”を伝えられるのだと思う。

●ロケット遊びに興味を持たなかった子も、関わりの中で参加する姿へと変わっていった。

〈問②に関する答え〉

●一日のがんばりを認め、スキンシップをとって一人ひとりに声を掛ける。

●笑顔を大切に、先生が守ってくれる安心感を感じられるようにする。

●“自分で出来た！”を感じられるような援助をする。

●共感・理解・家庭との連携（保護者参加の体験をすることで、我が子への愛情をもてるようにする）

★ぼぶら組

【問い】①『個』の遊びが、本日行ったようなステージごっこ等の『協同』の遊びへと発展をしていく発達段階にあります。子どもたちの様子をご覧になり、友だちとの関わりの様子で気が

付いたことがあれば教えてください。

②クラスの遊びに入らない幼児への具体的な対応のポイントを教えてください。

〈問①に関する答え〉

●幼児同士が誘い合う姿・お互いを見て「いいね！」と認め合う姿があった。友だち同士で声を掛け合うことにより、自然に遊びに入ると感じた。

●劇ごっこの本番だけ交ざる幼児がいたが、周囲の子が自然と受け入れてあげていた。友だちとの信頼関係が遊びから見えた。

●活動の後（帰りの集まり）に円になって振り返り、自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを聞いたり自然とできているのが良かった。次の日に期待が持てるような時間となっていた。

〈問②に関する答え〉

●活動に直接つながらなくても、遊びを楽しんでいることもあるかもしれない。また、その子が一人であるべき時期なのかもしれない…ということを考慮し、その見極めを大切にする。

●本人の好きなことを取り入れてみる。

●配慮が必要な場合はスモールステップを大切に、一緒に喜ぶ。

●「○○しないでね」ではなく、「こうしてほしいな…」を伝えていくのもよいかもしれない。

●共感することが大切。

〈当日の活動へのアドバイス〉

●もう少し子どもたちだけで考える時間を見守っていくのもいいかもしれない。トラブルがあったとしても5歳児への種まきの時期として捉え、経験していくことが大切。

★いちよう組

【問い】『友だちへの思いやりの心を育んだり、友だちの良い所に気が付き関わりを深めたりするようになる。』というねらいで、今日の活動を計画しました。活動の様子をみて、良かった点と改善点について教えてください。

〈良かった点について〉

●やりたいことをやっていた幼児の姿が生き活

きとしていた。

●サーキットの道を作り、虫を捕る・虫を作る・おじま虫をするといった役割ができていた。

●困った子・泣いている子に声を掛けたり、助け合ったりしていた。また、「道を変えてもいい？」等と話し合って遊びを広げていた。

●次につながる振り返りの時間があった。

〈改善点について〉

●作品について作っただけでなく、皆の前で工夫した所を伝えるということをやってみる。

●折り紙以外の空き箱や紙粘土等で表現の幅を広げていく。フープやトンネルの道も幼児の手が加わったら面白いと思う。

●環境として本物の虫や図鑑を置いてみる。

●安全面の配慮として広い部屋を確保する。

〈友だち関係の幅を広げていくような関わり〉

●やりたいことはやってみる。

●いい所・悪い所ではなく、個性として受け止める。

●先生が気持ちに余裕を持つようにする。

★やなぎ組

【問い】①本日の活動の中で友だちとの会話が弾み、意欲的に取り組むことを意識して接しています。子どもたちの姿で気が付かれたことを教えて下さい。

②貴園で幼児が自己表現する為に工夫している環境があれば教えて下さい。

〈問①に関する答え〉

●子どもたちが自発的で意欲を持っている。また、お互いに認め合う姿があった。

●自分のグループだけでなく、「隣のグループも良いから見て！」と他の子の良い所を見てほしいと自分から気付いていた。

●作るのがとにかく楽しそうだった。

●友だちに「見て！」と伝えて認めてもらい、次頑張ろうという気持ちが芽生えているのが伝わってきた。

●今日の振り返り、絵本作りの出来上がりを伝える場面で読むのに夢中になりすぎて、見たい

子が見られなくなるようだった。

●テーブルの使い方も分かりやすくするといいかもしれない。

〈問②に関する答え〉

●友だちの“いいねの木”を作っている。可視化することで、幼児自身が自分や友だちの良い所・周りの様子に気付くきっかけとなる。

●遊んでいる姿・挑戦する姿を写真にして掲示して、お互いが頑張っていることに気付ける取り組みをしている。

●先生側からだけでなく、子ども側から伝えてもらうことで、次の活動へのきっかけになるのかな…という思いで、発表の機会を多くしたり、振り返りを大切にしたりしている。

●自分で夢中になったことは、伝えたいこととなっていくのではないかな。



★かしわ組

【問い】個々の遊びがクラス全体の遊びへと変化していく為に、先週からピンポン玉を加え環境の再構成をしています。子どもたちの声や姿が環境の再構成にどのように活かされていたか教えて下さい。

〈問に関する答え〉

●自分から中に入っていない子への環境。近くにブロックが置かれ手に取りやすくなっていたので良かった。幼児が手に取り遊びだしていた。

●約束事を決めてから遊ぶことは、協力するという気持ちの芽生えに繋がるので、特に年長児には大切な経験だと思った。

〈当日の活動へのアドバイス〉

- 教師が入りすぎてしまわない、トラブルや上手くいかない経験も大切なこと。
- ピンポン玉を加えたところがあるが、どんぐりや松ぼっくり等の季節の物を取り入れると、更に面白い発見があるかも。
- 話し合うときの隊形を変えてみる。

コーディネータの先生より

質を高めるためには評価が必要な時代になってきた。質がどのようなものなのかを知るために語っていくということの意義があり、チェックすることが大事になってきている。今回のECEQにおいては、「ここを見てほしい!」ということが予め伝えてあることで、参加者がより語りやすくなっている。ポイントが明確になっているところに意見をもらう為、意見を聞いた後、先生方は実践してみようという思いが生まれる。語り合いがあることでお互いに見えていなかったものが見えてくるようになり、公開保育を活かした幼児教育の質の向上につながっていくのではないだろうか。ECEQの特徴が語り合うことで質を高めていくところにあるので、他園でもECEQをやってみたいな…という思いが出てくるといいなと思う。

感想・報告

参加者の方々が受付の段階でどのグループに入りたいか、クラスの活動内容を見て真剣に選んでくださっていたのが印象的だった。クラスによっては、観察だけでなく参加していただく様子もあり、より本来の幼児の姿が見られていたように感じた。今回ECEQを取り入れたことで、教師が知りたいと感じていることを「問い」にし、それについて直接語り合うことで明確に知ることができていた。また、普段の保育の中で、子どもたちにとって良いことは何だろうと考えながら過ごしていても、“これでいいのかな

…”と不安に感じたり悩んだりしてしまうことがあったので、保育に関する“いいね!”素敵だね!“を伝えてもらうことは、教師自身の安心と次への意欲を高める機会となった。これまでも幼児の姿を共有し合いながら保育を考えてきたが、他園の先生に自分たちの保育をいかに伝えるかを考えながら取り組んだことは教師間の共通理解と協力体制を築くうえで良い学びとなった。

様々な意見の中であったように、一番大きな環境であるのが人的環境であることを改めて考えさせられた公開保育となった。

まとめと今後の課題

公開保育後の11月13日にECEQ®step5を行った。当たり前前にしていたことに“いいね”を頂いたことで、それが自園の良さであることに気付かされた。また、問うことで見えてきた新しい視点の数々に保育のヒントが見つかり、幼児の見方や遊びがより深まるきっかけになった。公開保育では、皆さんにどうしたら園の保育を伝えられるのか、また、担任が何を考えクラスづくりをしてきたかをどうしたら伝えられるのかを考え悩んできた。担任と副担任が考え合う時間が増えたことも、step2で課題としていた「主体性の捉え方」や「教師自身の保育の課題」等を考えるうえで非常に大きな収穫だった。今後は、ECEQを通して見つけた園の良さを大切にしながら、共に考え、それを共有していくことを課題として取り組んでいきたい。

